

**白河市複合施設管理運営計画検討委員会委員委嘱状交付式  
及び 第1回白河市複合施設管理運営計画検討委員会  
議事要約**

- 1 日 時 令和5年10月12日(木) 13:30~16:00
- 2 場 所 白河市役所本庁舎 5階 正庁
- 3 出席者  
委員 長：市岡 綾子 (日本大学工学部 専任講師)  
委 員：青砥 和希 (一般社団法人 未来の準備室 理事長)  
浅川 なおみ (白河市公民館運営審議会 会長)  
石川 格子 (公益社団法人 白河青年会議所  
蘭の如し魅力発信委員会 委員長)  
佐藤 玲 (白河市男女共同参画推進懇話会 会長)  
菅山 明美 (公募)  
芳賀 有貴哉 (公募)  
牧田 恵 (NPO 法人 子育て環境を考える虹の会 副理事  
白河市ファミリーサポートセンター センター長兼アドバイザー)  
村越 美穂子 (白河市健康づくり推進協議会 会長)  
市 長：(代理) 圓谷 光昭 副市長  
事 務 局：井上 市長公室長、仁平 地域拠点整備室長、八巻主任主査兼係長、カダカ主査、  
穀田 副主査、原 建築住宅課長、松川 課長補佐兼係長、山本 主査  
そ の 他：パシフィックコンサルタンツ(株)(新田、桂田、今本)
- 4 次 第
  1. 開 会
  2. 委嘱状交付
  3. 市長あいさつ
  4. 委員会委員の紹介
  5. 委員長・副委員長の選出  
※委員長には市岡綾子氏、副委員長には藤田龍文氏が選出された。
  6. 委員長あいさつ
  7. 議 事
    - (1) 複合施設整備基本設計の概要について
    - (2) 複合施設管理運営計画の策定概要について
    - (3) ワークショップの実施結果について
    - (4) サウンディング調査の実施について
    - (5) その他
  8. 閉 会

## ＜議事＞

### 【委員長】

それでは早速議事に入りたいと思います。(1)複合施設整備基本設計の概要について、事務局からご説明をお願いします。

### (1) 複合施設整備基本設計の概要について

(複合施設整備基本設計（概要版）により事務局が説明)

### 【委員長】

ありがとうございました。只今のご説明につきまして、ご意見・ご感想はございますか。特にないということでしたら、このまま進行を進めさせていただきます。その後何か思い出しましたら、その際にご発言いただければと思います。

続きまして、(2)複合施設管理運営計画の策定概要について、事務局からご説明をお願いします。

### (2) 複合施設管理運営計画の策定概要について

(資料1 複合施設管理運営計画の策定について、資料2 複合施設管理運営計画策定体制図、資料3 管理運営計画スケジュール（予定）により事務局が説明)

### 【委員長】

ありがとうございました。只今のご説明につきまして、ご質問、ご意見はございますか。

### 【委員】

2回目や3回目の検討委員会で議論する内容が沢山あると思われませんが、これはある程度の方向性が示された素案が提示された上で議論を行うのでしょうか。それとも、これはどうしたら良いと思いますかと尋ねられるような、意見出しの段階から行うのでしょうか。

### 【事務局】

進め方としましては、庁内で議論した検討のたたき台を示しながら、ご意見やご提案をいただくことを想定しております。全く白紙の状態から議論していただくのではなく、ある程度かたちになったものについて議論をしていただく予定でございます。

### 【委員】

それでは、それぞれ2時間など予定されている時間内に会議が終わる状態に仕上がっていると思ってよいのでしょうか。

### 【事務局】

設計段階の検討委員会では、議論が2時間半程度になったケースもございます。なるべく事前に資料を提供して中身をご確認いただいた前提で意見をいただくことや、追加

で意見がある場合は別途ペーパーで提出いただくなどの対応をこれまで取って参りましたので、今後もそのような方法で進めて行きたいと考えております。

**【委員長】**

検討委員会の議論としては、この場で一から決めるわけではないということです。

**【委員】**

ワークショップなどヒアリングを既に行っていると思うので、そこからあがってきた意見がある程度集約され、ある程度出来上がったものについて議論することになるかと思えます。その時に、例えば、新型コロナウイルス感染症の影響で全く違う世の中になったときのように柔軟に対応していく委員会なのか、それともある程度決めたところを進む委員会なのか、どちらなのかということを確認したくてお聞きしました。

**【委員長】**

これまでの検討過程では新型コロナウイルス感染症の影響もあり、その都度延期をするなどの対応を事務局で判断され、委員の皆様方にも説明しつつ進めておりました。何かお気づきの点がございましたら、事務局にお尋ねいただきますようお願いいたします。

ほかにご質問、ご意見はありませんか。

**【委員】**

整備検討会議とワーキンググループの関係ですが、基本的に整備検討会議が主体で、必要に応じてワーキンググループに検討課題を下ろしていくかたちなのか、反対に、ボトムアップ的にワーキンググループがしっかり検討したものを整備検討会議において部長級が審議し、必要に応じて再びワーキンググループに下ろしていくというかたちなのか、どういった関係なのか教えてください。

**【事務局】**

基本的にはボトムアップで進めております。担当課長級で議論し、必要に応じて、機能ごとの分科会を開き適宜対応しております。ある程度かたちになったものを部長級会議に諮り、全庁的に合意形成を図る形となります。そこで議論された内容をその都度この検討委員会に諮るという手法で進めて行きたいと考えております。

**【委員】**

質問をした意図としては、配付資料に「ワーキンググループは適宜開催」と示されているため、具体的な間隔などのイメージをお伺いしたくお聞きしました。

**【事務局】**

これまでの庁内の議論の経過については、どのような頻度で開催し、どのような議論を行ったかを整理して、今後、ご提示いたします。

**【委員】**

資料1の6ページについてです。あくまで現段階の案であることを理解した上で質問しますが、管理運営計画の運営方針・コンセプトは、基本設計のコンセプトとどのような

関係性なのかを伺います。

#### 【事務局】

基本計画で定めた整備コンセプト「みんなの笑顔がつながる ほっとスペース」は施設全体のあるべき姿、最上位目標と考えております。これに基づき定めた基本設計のコンセプトは、ハード面を念頭に整理したものです。当然、管理運営計画もこのコンセプトを踏襲しながら定めていく必要があると思っております。最終的には、管理運営の方針を決めていく段階では、皆様からの意見をいただきながら、管理運営におけるコンセプトや方針をどのように定めるかを検討して決めていきたいと考えております。

#### 【委員】

資料に記載があるように、計画においてハード面とソフト面を分けて考えるのと同様に、基本計画の整備コンセプトをハード面において落とし込むと基本設計のコンセプトとなり、ソフト面において落とし込むと管理運営計画のコンセプトになるとして、それぞれ関係しながら、この大目的を叶えるものであると理解しました。

#### 【委員長】

ほかにいかがでしょうか。

では続きまして、(3)ワークショップの実施結果について事務局からご説明をお願いします。

### (3) ワークショップの実施結果について

(資料 4 新しい複合施設についてみんなで考えるワークショップ結果報告 により事務局が説明)

#### 【委員長】

ありがとうございました。只今のご説明につきまして、ご意見、ご質問はございますか。

#### 【委員】

ワークショップについて率直に感じたことを3点お話したいと思います。

1つ目は、非常に多くの意見が出ており、これらをすべて反映させようとする何に特化した施設なのかというコンセプトを見失ってしまうような気がしましたので、優先順位を付ける必要があるのかなと思いました。

2つ目は、どんな人にも利用してもらえるというのは重要ですが、ハードルを下げ過ぎることによって、この施設の治安が維持できるのかも不安に感じる場所があります。「みんなの笑顔がつながる ほっとスペース」ですので、安心して利用してもらえるために、そのハードルをどこまで下げればいいのかについては考える必要があるのではと感じました。

最後の3つ目は、中高生の学習スペースの要望についてです。10年前、20年前と家庭の環境も全然違うと思うので、中高生がどういう生活をしているかを全く想像できないのですが、家に居たくないから学習スペースが欲しいのか、ただ単に学校が早く閉まるため学習スペースが欲しいのかなど、学習スペースを要望する本当の理由は何なのか、裏に

は何か課題があるのかなと思いました。

図書館に行けば、図書館を利用している高校生は沢山見られますが、静かすぎて利用したくないという中高生も居ます。お喋りできる学習スペースが欲しいという声も先ほど聞かれましたが、ではお喋りできる学習スペースには一体何を目的に来ているのかなど、何のためにその場所が欲しいのかが分かると良いのかなと思います。意見が出る裏には学生・児童の家庭や環境の課題が存在しているのが見え隠れしているように思えますので、制度や建物利用を考える際には、その点も配慮する必要があるのかなと考えております。

#### 【委員長】

今のご意見に対して、事務局からお答えできる範囲でご回答いただけますでしょうか。

#### 【事務局】

中高生の学習スペースに関しては、ワークショップや他の機会で高校生と意見交換をしたときの様子からも、家はあくまでも「オフ」の空間であり、勉強は第三の居場所のような外でやりたいということが窺えました。

もちろん家で勉強する子や塾に通う子もいるのですが、こういったワークショップの参加者などの声を聞くと、大半の子どもにとって家は「オフ」であり、家では好きなことをするという場所であるという声が聞かれました。

#### 【委員】

正確ではないのですが、図書館やマイタウンで中高生が勉強しておりますが、公共施設の席には「縄張り」があり、ずっと特定の方が座っていることもあります。決まった方が決まった場所を利用しているため、そこに入れないと実質的に居場所がなくなってしまっている中高生もいるのだらうと認識しています。

一方で、兵庫県のとある市では駅前に同じような施設を整備しましたが、そこでは様々な高校の生徒が入り混じり毎日満席となっております。どうしてそうなるのかと思っておりますが、やはり子どもとしては居場所が欲しいのかなと思っております。

#### 【委員】

私が高校生の頃は、当時は夜 10 時まで学校の会議室をいくつか自習スペースとして開放していました。そのためか、当時は学習スペースが欲しいという声は聞かれなかった記憶がございます。しかし、現在そこまで学習スペースが欲しいという声が聞かれるということは、やはり環境の違いがあるのだらうと感じました。

#### 【事務局】

ノートを友達と見せ合いながら勉強がしたい、一方で定期テストのときは仕切りがある環境で集中して勉強したいという意見もありました。マイタウンは特定の高校の生徒が多いため他校の生徒は利用しづらいという意見もあり、一方でコミネスの 2 階のフリースペースにはまた違う高校の生徒が多いと聞きます。また、ワークショップの中でも意見が出されておりましたが、白河市の高校生の中には、定期テストの期間中は学習スペースが足りず、電車賃を払って黒磯駅前の図書館のフリースペースを利用しているという声も聞かれました。

### 【委員】

子どものための屋内施設をいくつか取材しておりますが、どこの施設も小さい子どもが午前中から沢山訪れています。私たちが子どもの頃は夏に外で遊んでいましたが、今は気候変動とともに屋内で遊べる環境が必要になってきたのだと感じました。施設を作っていないと、子どもを遊ばせられる場所が無くなっていくと思います。加えて、教員の労働環境が変わっていく中で、市が対応せざるを得ない部分も生じているのかもしれないと感じております。

### 【委員】

なぜ中高生の学習スペースが必要になるかという議論が交わされていますが、なぜ必要になっているかの根底には、両親が共働きのため家にいないことがあげられると思います。また、塾から家に帰るときの電車やバス待ちや、部活動が少しずつ減ってきているので、部活動をせずに学校からそのまま帰るときにバスや電車がすぐに来ないという背景もあった上で、待ち時間を潰すためにこのようなスペースが欲しいという事情もあると思います。

白河は県内でも中高生が滞留できるスペースが充実していると、他の地域の方からも言われることがあります。図書館やマイタウン、コミネスもあり、駅の近くに中学生や高校生がいられる場所があるのは、他の地域と比較しても良い所だと思っています。ただ、これから先、子どもが少なくなっていくとはいえ、このような居場所を考えてあげるのは大事だと思います。そのときに、どこの学校がどの施設を占領しているかではなく、その場所をどうすれば共有できるかを考えてあげる方が親切ではないかと感じました。

### 【委員長】

高校生に特化する施設ではないとはいえ、若い方々がそのような所に不満を持ち、地域から出て行ったまま戻ってこなくなる可能性も考えられます。この委員会でどこまで対応できるかは分かりませんが、社会背景も踏まえて考える必要があるのかもしれない。特定の高校が占有している状況は平等性の観点から避けたいと思われそうですし、だからこそ、ワークショップで「施設の予約アプリ」という案が出てきたように思われます。

他の観点でも構いませんが、ご意見・ご感想などがある方はおられますか。

### 【委員】

ワークショップでも出た意見でもありますが、15時から19時の時間帯が、高校生が最も使う時間であると思いますが、それ以外の時間帯についてもどのように使われるかを考え、居場所をつくってもずっと使われないままになってしまうのを避けられるような対策を考えた方が良いでしょう。

### 【委員】

少し話題がそれるかもしれませんが、ワークショップの中にチャレンジカフェという案が出てきております。とても良いとは思いますが、安定した要素、不安定な要素のバランスを考慮する必要があると思います。黒磯駅前の図書館の居心地が良いのは、素晴らしい空間に加え、安定して美味しいカフェがあるからだだと思います。それを前提に隣にチャレンジカフェがあるのは良いと思いますが、不安定なカフェしかなくクオリティにムラ

が出てしまうと、利用しづらくなってしまわないかと思います。

**【委員長】**

やはり、それなりのクオリティのカフェがあるからこそ、人々が集まり、その場所の魅力が相乗していくことは当然あると思います。

それでは続いて、(4)サウンディング調査の実施について事務局からご説明をお願いします。

**(4) サウンディング調査の実施について**

(資料5 管理運営等に関するサウンディング調査の実施について により事務局が説明)

**【委員長】**

ありがとうございました。只今のサウンディング調査に関する説明につきまして、ご意見、ご質問はございますか。

**【委員】**

コミネスやマイタウンは市の業者による指定管理で運営されておりますが、大きな事業になればなるほど、市外や県外から参加する民間事業者が増えるものと思われま。市外の文化ホールでは、都会から全く知らない事業者が参加し、市がお金を支払う一方で、運営がきちんと行われなくなる例がいくつもあると聞いております。

市内の参加可能な事業者は限られると思いますので、市外から参加してきた事業者の下調べは慎重に行っていただきたいと思います。

**【事務局】**

今回のサウンディング調査は広く市外からも参加できる条件で募集しております。当然ではありますが、参加する団体には運営のノウハウや実績があることが通例であります。

このサウンディング調査にあたっては、管理運計画策定支援業務の委託事業者より専門的な立場からアドバイスを受けつつ実施してまいります。運営を委託する場合、その事業者の募集にあたっては、法令や条例に基づき、実施することを想定しております。

**【委員】**

以前、複数の指定管理者が入る他県の施設を視察したことがあります。この施設は図書館とカフェはとても綺麗で賑わっていましたが、創業支援の部分はあまり利用されていないようでした。複数の事業者を運営に関わらせると、全く違う空間が出来てしまうという現象が起きかねないと思いました。それが起こらないように全体を整えるような工夫が必要だと感じました。

**【事務局】**

施設全体の統括をするような役割を果たす組織体制が必要であると認識しております。また、各機能が連携し相乗効果を発揮できるような仕組みづくりが必要だと考えております。

### 【委員】

建物のコンセプトデザインはしっかり出来ているものの、例えば建物を運営業者に引き渡した後でサインなどをデザインする場合は、そのクオリティに差がでてしまう恐れがあります。

### 【委員長】

今回の複合施設は計画と設計を一括で実施しているため、そこまでの違和感は生じないかと思われませんが、複合機能でかつ行政以外の民間事業者の手を借りることが必須となっている状態で、どのように連携を図るかについて考える場がこの委員会であると思います。皆さんの知見や関わられたご経験をもとに、忌憚のないご意見をいただくことによって、しっかり準備して施設運営をスタートできるものと思われま

### 【委員】

先ほどの委員の話のとおり、指定管理者が分かれることにより、せつかく市役所内の縦割りを防止するために第三者を入れて手が届かない所を解消しようと思ったら、さらに縦割りが発生してしまうという可能性はあるかもしれません。

民間の事例ではありますが、秋田県のとある町では、倉庫を改装して30店舗ほどテナントが入った公園兼商業施設が展開されております。そのテナントでは商店街組合のようなものをつくり、公園という共用部分を含んでどのように管理するかを協議し、足並みをそろえて運営しています。沖縄県の施設でも同じような取り組みを行っております。このように、仕組みを作ることによって、欠点をカバーしてクオリティを揃えられるのではないかと思います。ここから先は手を出さない、という領域を決めるとバラバラになってせつかくの複合施設なのにもったいない状態になってしまう可能性もあります。どのように理想像を作っていくかを議論できれば良いと思います。

また、先ほどあがった創業支援の施設についても、なるほどと感じました。このようなインキュベーション施設は、たとえ作ったとしても、何かをやりたい人と背中を押してあげる体制がないと進まないと思います。先ほどのチャレンジカフェも同じく、やりたいという段階と、やるという段階には大きな隔たりがあると思いますので、少し管理運営計画の範疇から外れてしまうかもしれませんが、インキュベーションであれば、どのように企業を誘致してくるかなど、まちとしての戦略も踏まえて、関係のある分野については管理運営計画に反映できればいいのかなと感じました。

また、先ほどの運営事業者として市外の業者が来てしまうという意見ですが、地域の中で回っているお金が外部に流出するのを防ぎたいということだと思いますし、当然、内需が市内で回りつつ、外貨を獲得できるように戦略を組み立てるべきだと思います。一方で、それを担えるだけの人が、市内や県内にいるのかということもあると思います。目指すべきコンセプトはまさしく「ほっとする」、「笑顔になれる」場所をどうやって作れるかだと思うので、第一歩は「よその力」を使いながら、少しずつまちの中で担えるところを探し、力を蓄えていく戦略を考えることが重要なのではないかと思います。

### 【委員長】

まさしく、その戦略づくりだと思います。新しい取り組みを経験の浅い市内の人に委ねて担当していただくとなると、その人も大変で途中でくじけてしまう可能性も考えられ

ますので、まずは慣れている方にお越しいただくという方法もあるのではと思います。ただし、白河市の方と一緒にタグを組んで、いずれは白河市の人たちに引き継げるような方に来ていただきたく、そのような民間事業者を選んでいただきたいです。

また、市としてこの施設をどうしていきたいのかを市民に示す必要があると思います。その施設に来た人が笑顔になるだけでなく、その建物があるという存在そのものによっても白河市の皆さんが笑顔になり、白河に居て良かった、白河に誇りを持てると思える場所になってほしいと願っております。黒磯の図書館のように、他の自治体からも白河市に関わる人々を増やすような仕組みづくりに取り組んでいる姿勢を見せられると、白河市に関わってみたい、住んでみたいという人たちが、白河市に関わり続けられるようになり、結果として施設も賑わっていくと思われまます。

その白河市の将来のために、民間事業者の意向を市が捉え、白河市民の方々を施設運営の見地から育てていく機会も設けるような条件を加えるようにすれば、市民の皆さんにも白河市が覚悟を決めて取り組んでいる姿勢が伝わるのではないのでしょうか。このような戦略を市全体で共有できることが望ましいと思います。

#### 【委員】

笑顔がつながるほっとスペースという整備コンセプトは、運営者側にも当てはめるのがポイントだと思います。やっている人が笑顔なら来る人も楽しくなります。この間、東地域のとある食堂に行ったのですが、忙しいけれども働いている人がみんな笑顔で、それがこのおいしさに繋がっているのだと感じました。来る人も働いている人も楽しい、そういうスペースになれば良いなと思います。

#### 【委員長】

事務局の方には、ぜひサウンディングのときは、この検討委員会で出てきた思いを受け止めて対応いただけるようお願いいたします。

それではその他について、事務局からお願いします。

### (5) その他

#### 【事務局】

2点連絡事項がございます。

まず1つ目は先進事例の視察についてです。11月6日、月曜日、14時から東京都武蔵野市の武蔵野プレイスへ先進地視察を実施します。集合時間や場所や施設の内容等につきましては、後日、文書にてお知らせいたしますので、確認をお願いいたします。

2つ目は次回の会議の日程です。今回は、11月30日、木曜日、15時30分から、市役所地下会議室で開催いたしますので、スケジュールの調整をお願いします。

#### 【委員長】

それでは進行を事務局にお返しします。

#### 【事務局】

委員長、ありがとうございました。

それでは以上をもちまして、「白河市複合施設管理運営計画検討委員会委員委嘱状交付式及び第1回白河市複合施設管理運営計画検討委員会」を閉会いたします。

委員の皆様には、長時間にわたり、ありがとうございました。